

小学校新学習指導要領に対応した カリキュラム・マネジメント

— 年間総授業時数増加を受けての取組 —

令和元年 8 月 5 日



本日の流れ

- ① 千葉県の現状・課題
- ② 本事業の目的と具体的な取組
 - ・ 柏市立酒井根東小学校
 - ・ 市原市立海上小学校
 - ・ 市川市立塩浜学園
 - ・ 市川市立行徳小学校
- ③ 成果と課題
- ④ まとめと提案
- ⑤ 実践校校長より



千葉県の現状・課題

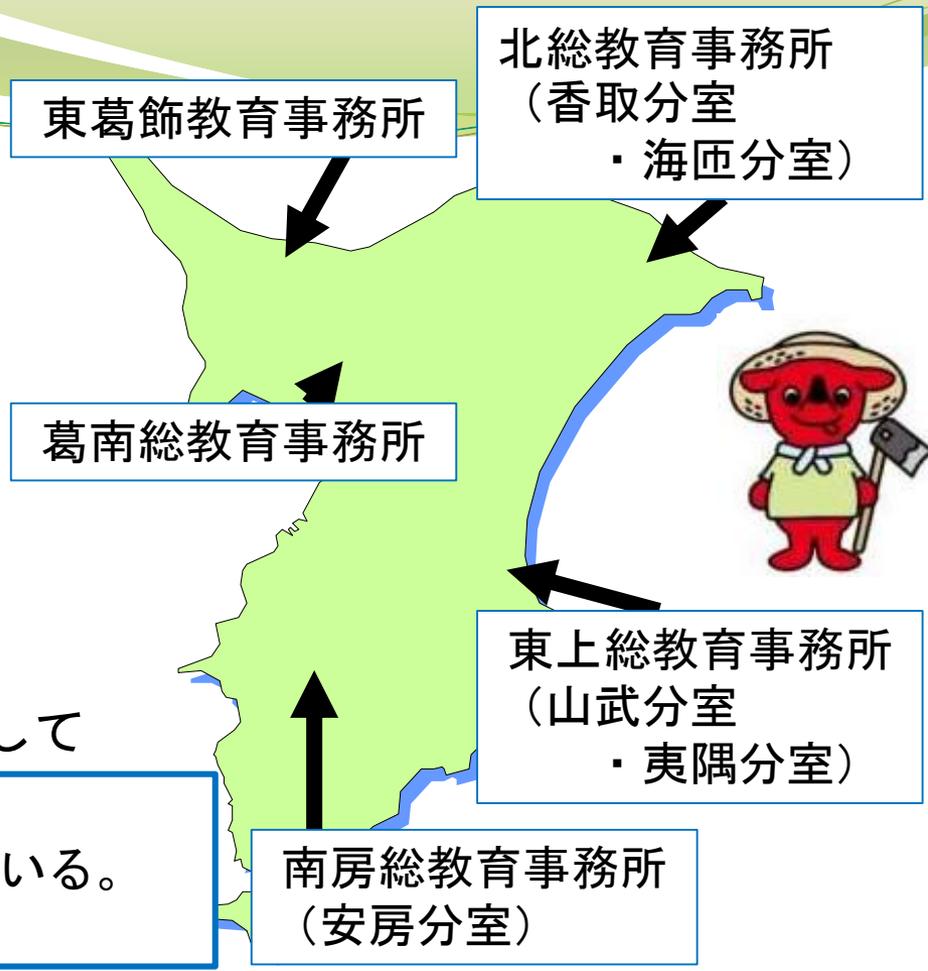
◎千葉県の現状 (平成30年5月現在)

- ▶ 市町村教育委員会数 54
- ▶ 公立小学校数 792校
- ▶ 義務教育学校数 2校
- ▶ 県立特別支援学校数 (小学部) 35校
- ▶ 市立特別支援学校数 (小学部) 2校

◎千葉県の課題

小学校外国語教育の授業時数増加に対して

- 学校数が多い。
- 地域によって、特色ある教育が行われている。
- 抱えている教育課題が異なる。



全県で足並みをそろえることは困難。



2 本事業の目的と具体的な取組

◎ 本事業の目的

1 問題の所在

各学校において、児童や学校及び地域の実態を適切に把握し、カリキュラム・マネジメントに努める必要があるが、参考となる事例が少ない。

2 目的

外国語活動・外国語科を軸として、弾力的な時間割編成の在り方や教育効果を高めるための指導計画等について実践的な調査研究を行う。

その成果を普及するために、教育課程編成の手引きとなる『新学習指導要領に対応したカリキュラム・マネジメントの在り方』を検討し、指導資料を作成する。

◎ 具体的な取組

1 カリキュラム・マネジメント調査研究実践校の指定

柏市立酒井根東小学校

市原市立海上小学校

市川市立塩浜学園（義務教育学校）

市川市立行徳小学校

2 カリキュラム・マネジメント検討協議会

①教育課程の編成の在り方を協議する。（H29年度3回、H30年度3回）

大学教授、県教育委員会、市教育委員会、実践校担当者、各教育事務所担当者

②「時間」のマネジメント・リーフレット作成、配付。（H29年度）

③「小学校新学習指導要領に対応したカリキュラム・マネジメント」の作成、配付。

（H30年度）



(都市部にある中規模校)

◎ 具体的な取組

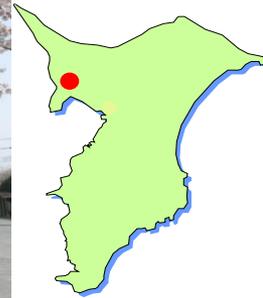
校長名 梅津 健志

児童数 500 学級数 20

教職員数 31 ※H30年度データ

学校教育目標

豊かな人間性と主体的に学ぶ力を備えた
実践力のあるたくましい児童の育成
経営重点＝友達と共にやりぬく子の育成
～感じ 考え 行動する 東っ子～



課題

- ・ 前年踏襲の行事や年間指導計画
- ・ 新学習指導要領の理解と対応
- ・ 授業改善
- ・ 外部人材の活用

15分を活用して、短時間や60分の授業を実施する

「実践しているカリキュラム・マネジメント」

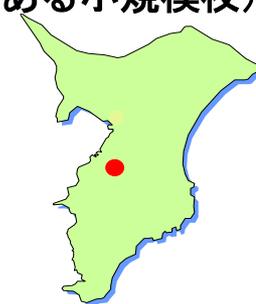
- ・ 朝のモジュール時間設定を有効活用
- ・ 実践修正型のDCAPサイクル
- ・ 教育課程創造会議とワークショップによる全教職員の参加
- ・ 近隣大学生や地域人材ボランティアの活用



(地方にある小規模校)

◎ 具体的な取組

校長名 鈴木 俊一
児童数 65 学級数 6
教職員数 13 ※H30年度データ



学校教育目標

たくましく歩み、未来へ飛躍する子
～子どもの可能性を最大限に伸ばそう～

課題

- ・ 1 / 3 が学区外通学（過疎化）
- ・ 新学習指導要領の理解
- ・ 新しい教育課程と指導体制の構築

15分を活用して、短時間の授業を実施する
(移行措置活用)

「実践しているカリキュラム・マネジメント」

- ・ 短時間学習や長時間学習を活用して実施
- ・ 移行措置により総合的な学習の時間を15時間減ずる
- ・ イングリッシュウィークなど特色ある教育活動
- ・ 専科教員、英語免許所持教員、外部人材の活用



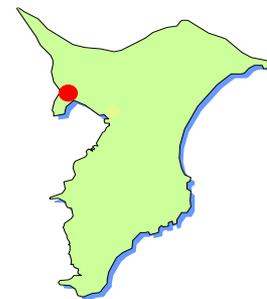
2 本事業の目的と具体的な取組

市川市立塩浜学園

(都市部にある義務教育学校)

◎具体的な取組

校長名 石田 清彦
児童数 139 学級数 6
教職員数 43
(中学校教員含む) ※H30年度データ



学校教育目標

ふるさとを愛し 自ら夢を持ち 心豊かで
たくましく生きる児童・生徒の育成
～人をつなぐ 未来へつなぐ～

課題

- ・不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒への対応
- ・一部教科担任制のマネジメント

50分をすべての授業の標準とする

「実践しているカリキュラム・マネジメント」

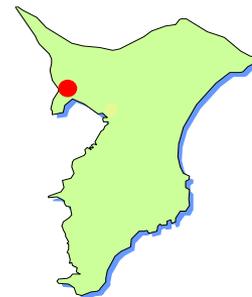
- ・1単位時間の授業分数の工夫
- ・45分によらない50分をすべての授業の標準とするマネジメント
- ・小・中教員による教科担任制



(都市部にある大規模校)

◎ 具体的な取組

校長名 石井 辰治
児童数 1, 049 学級数 38
教職員数 57 ※H30年度データ



学校教育目標

- わっしょい 一心も元気、体も元気、頭も元気
- ・人の気持ちを考え、他人に感謝する子【心も元気】
 - ・進んで体を動かし、健康安全に気を付け、粘り強く続ける子【体も元気】
 - ・自分の思いを表現し、学びを深める子【頭も元気】

課題

- ・大規模ゆえ、調整や連絡に時間がかかる
- ・学校全体の歩調をそろえるマネジメントが困難
- ・様々な課題が数多くある

各教科等の特質に応じ、年間の授業の一部を特定の期間にまとめて行う

「実践しているカリキュラム・マネジメント」

- ・土曜日や長期休業中に授業を実施
- ・短時間学習を活用して実施
- ・地域人材や保護者ボランティアの活用
- ・大規模校における教職員や関係者への周知理解



5つの時間割の提案

① 外国語科2単位時間、外国語活動1単位時間を週時程に入れて実施

	月	火	水	木	金
1	週29コマ				
2					
3		外国語		外国語または外国語活動	
4					
5					
6			クラブ委員会		

特記事項

- ・ 児童の集中力の維持
- ・ 下校時刻や下校方法の変更
- ・ 変更について家庭や地域、関係機関へ周知
- ・ 会議・研修等の時間の調整
- ・ 学年間の時数差が大きくなるので、校務分掌等を組織的に検討

② 年間総授業時数と標準授業時数の差を活用した時間割を作成して実施

	月	火	水	木	金
1	週28コマ				
2					
3		※(外国語等)		外国語または外国語活動	
4					
5					
6	会議研修		委員会クラブ	外国語	

特記事項

- ・ ※は、標準授業時数を上回る教科等に替えて外国語等を実施
- ・ クラブ・委員会のない週にも授業を実施
- ・ 授業時数の確実な管理が必要
- ・ 学期、月ごとに時間割変更も検討
- ・ ALT等外部人材の配置日を調整

⑤ 土曜日や長期休業中に授業を実施

	月	火	水	木	金
1	週28コマ				
2					
3				外国語または外国語活動	
4		外国語			
5					
6	会議研修		クラブ委員会		

特記事項

- ・ 休業日に授業を実施することで、年間授業日数を増やし授業時数を確保
- ・ 授業時数の確実な管理が必要
- ・ ②や③を併用して不足する授業時数を確保
- ・ 週休日勤務の振替が必要
- ・ 学校管理規則の見直しが必要な場合あり

外国語教育における配慮事項

【中学年】 外国語教育の入門期である。英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行う。その際、中学年という発達段階を考慮し、活動が単調にならないように注意する。言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、他教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりする。

【高学年】 外国語活動を土台として教科としての外国語を学ぶ時期である。中学年及び中・高等学校における指導との円滑な接続に留意する必要がある。言語習得の特性から、基本的な語句や表現などの定着を図るため、場面や活動等を替えながら、繰り返し学習させるなど、カリキュラム・マネジメントにより計画的・組織的に教育活動の質の向上を図る。

③ 短時間学習や長時間学習を活用して実施

	月	火	水	木	金
朝15分	※		※		※
1	週28コマ				
2					
3				外国語または外国語活動	
4					
5					
6	会議研修		委員会クラブ	外国語	

特記事項

- ・ ※は、短時間学習を実施(可能な教科のみ)
- ・ 短時間学習15分と45分をつなぎ、60分長時間学習で行うことも可
- ・ 短時間や長時間学習にする教科の選択・内容の味が必要
- ・ 短時間や長時間学習の年間指導計画・教材等の準備
- ・ クラブ・委員会のない週に授業を実施するなどして、不足する授業時数を確保

④ 変則的に午前中5コマ授業を実施

	月	火	水	木	金
朝自習			※午前中5コマ		
1			※午前中5コマ		
2				外国語または外国語活動	
業間					
3		外国語			
4					
給食					
昼休み					
清掃	週29コマ				
5			6コマ		
6	会議研修		クラブ委員会		

特記事項

- ・ 午前中に5コマを実施する曜日を設定
- ・ 朝自習や業間等の時間短縮を検討
- ・ 児童の集中力の維持
- ・ 5コマの中に、図画工作科や家庭科など、2コマ続きの授業を配置するなどの工夫
- ・ 児童の休憩時間の確保

研究実践校が取り組んだ時間のマネジメント

③短時間学習や長時間学習を活用して実施

柏市立酒井根東小学校

市川市立行徳小学校

市原市立海上小学校

⑤土曜日や長期休業中に授業を実施

市川市立行徳小学校

その他：1単位時間と全教科等の年間指導計画を変更して実施

市川市立塩浜学園（義務教育学校）





柏市立酒井根東小学校（都市部にある中規模校）

- 短時間学習に成果があった。
- 「内容」「人」のマネジメントにも取り組み、様々なマネジメントを有機的に結び付けることができた。
- 教員の打合せや研修時間が確保され、授業が確実に実施でき、時数管理もできた。
- 児童のコミュニケーション能力の高まりが見られ、人間関係が改善するとともに、学習理解の深まりが見られたため、学力が向上したと捉えている教員が増加した。
- 地域住民らの協力を得て、教職員が一致協力してマネジメントに取り組めた。

市原市立海上小学校（地方にある小規模校）

- 朝の短時間学習や1単位時間45分の授業を充実させることができた。
- 平成30年度は、短時間学習や移行措置活用等、複雑な時数管理に職員が協力して取り組むことができた。
- 教職員が共通理解を図りながら、同じ目標に向かって進む意識がさらに向上している。
- 児童のコミュニケーション能力の高まりを70%の教師が肯定している点に関連して、人間関係の改善と集団生活の中で時間を守る意識の項目が向上した。



市川市立塩浜学園

（都市部にある義務教育学校）

- 義務教育学校の特性を生かし、前期課程の小学校教員と後期課程の中学校教員が連携・協働した特色ある教育活動が実践できた。
- 50分授業を小中教員の相互乗り入れで実施し、小中接続期の授業がやりやすくなった。
- 児童・生徒は、小中教員の指導や児童・生徒間の交流があることからコミュニケーション能力が高まっている。
- 指導計画・日課表作成や授業実践・評価など、小・中の教職員が協働する環境や文化ができており、情報共有や連携・協力の意識が高まっている。

市川市立行徳小学校

（都市部にある大規模校）

- マネジメントを有機的に結び付けることができた。
- 休業日の授業日数増加と短時間学習を併用したため、複数の指導計画等を準備することを通して、「時間」のマネジメントの意識が高まった。
- 平成30年度は打合せ時間を確保し、教職員の共通理解のもと、連携・協働して取り組むことができた。
- 短時間学習や外部講師と協働した授業展開が実現され、児童の時間を守る意識の高まりや学習理解が進んだ。
- 保護者や地域住民らの協力を得て、業務改善や特色ある授業づくりに成果を上げた。

子供の視点から

- 児童のコミュニケーション能力の高まりが見られ、人間関係が改善すると考えられる。
- 児童や教職員の時間を守る意識が高まり、学習理解の深まりが見られ、学力向上に効果がある。

教職員の負担の視点、校務運営の視点から

- 教職員が共通理解を図りながら同じ目標に向かって進む意識が向上する。
- 教職員の就業時間を大切にできる意識が高まり、打合せや研修時間が最小限で確保され、時数管理により授業が確実に実施できる。
- 複数の指導計画等を準備することとなり、1年目の負担は大きい。

地域との関係の視点から

- 保護者や地域住民らの協力を得て、業務改善や特色ある授業づくりに成果を上げられる。
- 保護者や地域住民らへの協力依頼や教職員との共通理解を図るための情報発信や打合せの時間が必要になる。



設置者（教育委員会など）の視点から

○千葉県下においては、多様な教育実践が行われている。県教育委員会からの要望・提案は最小限に留め、これまでの伝統や地域の教育資源を生かし、児童の実態や地域の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントに取り組み、各学校のもつ「よさ」を特色として伸ばしてもらうことが基本方針である。

○小学校の授業時数増加に対応した「時間」のマネジメントだけでなく、授業の質の向上を目指し、「内容」「方法」や「人（組織・体制）」のマネジメント等を複合的に取り組むことで、より成果が上がる。

●教育活動の質の向上と働き方改革の2つを両輪としたカリキュラム・マネジメントに取り組むことができるよう、管理職を始めとした教職員全体の意識改革が必要であるため、県教育委員会として研修等において情報提供を継続し、前向きな取組を支援する必要がある。

提案1 いろいろなマネジメントを組み合わせましょう！

提案2 学校教育に関わる全ての人へ発信し、理解と協力を得ましょう！

提案3 教育活動の質の向上を目指すために、チェックリストから始めましょう！



柏市立酒井根東小学校におけるカリキュラムマネジメント

総則に示された手順を参考に実践

- (1) 教育課程編成に対する学校の基本方針を明確にする。
- (2) 教育課程の編成・実施のための組織と日程を決める。
- (3) 教育課程編成のための事前の研究や調査をする。
- (4) 学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を決める。
- (5) 教育課程を編成する
- (6) 教育課程を評価し改善する

全職員で児童の強みと弱みを出し合い
つきたい力＝「やりぬく力」

意欲

重点目標の周知と広報
やり抜く力を育むフレーズの共有

できるよう
になりたい

感じ

考え

行動する東っ子

明確なゴール

考える

協力して
がんばろ
う！

学校経営グランドデザイン

目標

資質・能力

目標実現に向けた取組手順



目標に向かい 友達と共に やり抜く子

平成30年度 酒井根東小 学校経営グランドデザイン

学校教育目標 豊かな人間性と主体的に学ぶ力を備えた 実践力のあるたくましい児童の育成

めざす児童像 目標に向かい 友達と共に やり抜く子

めざす姿

本校で育む資質・能力

資質・能力の育成にむけた課題

- ・主体的～への授業改善（学）
- ・ICTと図書館を活用した授業（学）
- ・外国語の教科化に向けた指導課程（動）
- ・道徳の教科化（心）
- ・総合的な学習の単元づくり（動）
- ・学校行事の精選（全）

課題解決の手段

プロジェクト型組織で取り組む

- ・授業改善
- ・外部人材と連携した活動
- ・周知と広報による理解促進

ゴール設定

- ・次年度教育課程を創る

実現に向けた重点取組みをプロジェクトチームで取り組む。

- 1 授業改善
- 2 外部人材と連携した活動
- 3 経営重点の周知と広報

目指す教師像

学び続け、実践を楽しむ教師
教えて任せる指導ができる教師
学ぶ組織を創る教師

子どもたちに身に付けたい資質能力

Concept（見通す力）

自己決定力－自分の意思・力で、自ら行動する
見通す力－課題に合った目標を持つ

Challenge（挑戦する力）

大人になる力－自分で判断し、困難に立ち向かう
自己肯定感－達成感を味わい成長を実感する

Communication（関わりあう力）

人間関係力－人のために協調して行動する

Control（自律する力）

考える力－考えて行動する
継続力－あきらめず、最後まで努力する

3プロジェクトによる取組み

プロジェクト	学びづくりプロジェクト	心づくりプロジェクト	動きづくりプロジェクト
課題	学習指導法の改善	一人一人の発達に応じた支援	カリキュラムマネジメント
課題解決手段	1 授業改善 主体的対話的な授業の実現 ホワイトボード活用推進 授業形態の工夫 算数の単元づくりを通じた校内研究の推進 学ぶ目的が明確な単元づくり 学校図書館活用の推進 学習情報センターとしての機能充実 読書する楽しさを実感する取組み ICT活用の推進 キーボードリテラシーの向上 教科指導でICTを取り入れた表現力の向上	1 授業改善 生徒指導の機能を生かした指導の充実 目標の一本化による生徒指導取組みの明確化 特別支援体制の充実 特別支援コーディネータの機能を活かし、一人一人の状況に合わせた支援と、子供たち同士のよりよい関係づくり キャリア教育の推進 なりたい自分の姿を持ち、自らの可能性を發揮し、よりよい社会の創り手となる指導の単元開発と日常化 道徳教育の推進 特別の教科道徳の指導法と評価法の確立	1 授業改善 主体的に取り組む特別活動 当番活動・学級活動・委員会活動等を通して自主自立（自働）を促す指導の工夫改善 教科と関連した学校行事の推進 学校行事と教科指導の関連を明確にする中で、行事の厳選を行い、教科が行事か位置づけを明確にする 児童の主体性を育む指導法の工夫改善 総合的な学習の時間の単元確立 総合的な学習の時間で育成する資質能力と指導過程の関連を見極めよりよい単元開発 学習したことを生かす外国語活動 学んだことを活かす学習活動との関連をカリキュラムマネジメントの視点で開発
	2 外部人材と連携した活動	2 外部人材と連携した活動	2 外部人材と連携した活動用
	3 周知と広報 目標申告との連動 HPの更新	3 周知と広報 目標申告との連動 HPの更新	3 周知と広報 目標申告との連動 HPの更新
プロジェクト成果	実践しながら修正し、みんなでつくりみんなが実践する平成31年度年間指導計画の作成 実践しながら検証し、実効性のある、学校図書館・ICT・生徒指導・特別支援教育・道徳教育の全体計画の作成 外部人材との連携計画の作成と学校支援コーディネータネットワークの構築		

柏市立酒井根東小教育課程創造 = カリキュラムマネジメントサイクルにより教師の意識が高まる

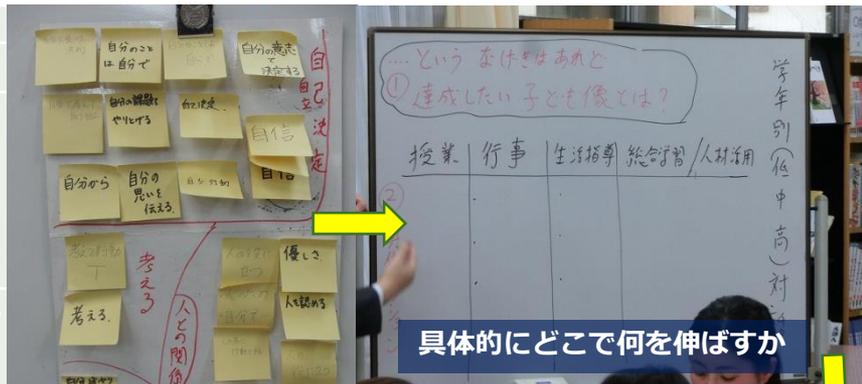
P・D	C・A	D	C・P	D	C・A	D	C・P
H29・4月	夏休み	9月-11月	12月-2月	4月-7月	夏休み	9月-11月	12月-2月
目指すかたと姿を決定 教育課程説明会 学校行事ごとにオンラインアンケートの実施スタート	教員の自己評価 新指導要領研修 外国語教科化に向けたモジュール設定 教員評価 = 2.7	教育ミニ集会 テーマ 読書量を伸ばす学校・地域・保護者 朝モジュール外国語	教員の自己評価 保護者・地域 学校評価アンケート 目指す姿の実現に必要な資質能力の策定 H30教育課程編成 教員評価 = 2.9	教育課程説明会 ・保護者 ・町会役員会 目指す姿の広報 実践-振り返り-次年度計画	7つの資質・能力と育成する学習場面の関連付け 目指す姿の広報 実践-振り返り-次年度計画 教員評価 = 3.2	教員の自己評価 保護者・地域学校 評価アンケート 目指す姿の実現に必要な資質能力の見直し H31教育課程編成	教員の自己評価 保護者・地域学校 評価アンケート 目指す姿の実現に必要な資質能力の見直し H31教育課程編成 教員評価 = 3.4



- 主体的~授業改善
 - ICTと図書館活用
 - 外国語教科化
 - 総合的な学習単元
 - 道徳教科化
 - 学校行事精選
- 研究授業成果によりグループホワイトボードの導入 全学級に8枚ずつ購入 ・全員にA4版ホワイトボードの購入 話し合い活性化
 地域ボランティアによる朝の図書館開館・図書委員による読書フェア年3回・読書会の全学級実施・調べ学習促進
 麗澤大学自主ゼミによる朝モジュール指導開始 ・H30より新学習指導要領完全移行 ・留学生との交流会開始
 H30実施しながら見直しし、教科横断・外部人材連携・学年相互連携を入れた計画立案
 年間指導計画見直し 研究会に全員参加 板書レコードをサーバー蓄積・実践共有 自主学習会の開催
 修学旅行、林間学校内容変更 持久走大会を防災公園で実施し目標の明確化 音楽集会を1日に短縮

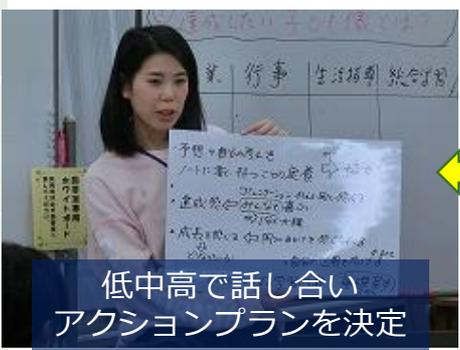
柏市立酒井根東小教育課程創造会議 2 育成する7つの資質・能力を見出し、育成アクションプランを構想する

時刻目安	正味 (min)	ありたい子ども像をみつける編 内容概略	図書館にて 6人×6グループ 行うこと (※は、ワーク設定の意味)	形式
15:00	0:15	オリエンテーション WSの目的説明 (校長) ファシリテーター紹介 (福島) チェックイン・ 「あなたが、今年、情熱を注ぎこみたいことは？」 対話のグランドルール 「何が正しい、だれが正しいを決める場ではない」	WSの目的と終了後のありたい状態を説明	全体 ペア
15:15	0:30	【目的・ビジョン】 Why/Purpose 私たちは、卒業時に、どんな子ども像を目指して、日々、教育活動をしているのだろうか？ それぞれの思いを語る (「〇〇ができてい子」など、個別具体でよい。合意は求めない。学校目標と関連してなくても可)	グループシャッフル⇒ペア対話⇒グループ対話 キーワードやステートメントをホワイトボードにメモ⇒全体シェア (5分) 5分×2	ペア グループ
15:45	0:15	【学校の現状認識/前提や背景の共通理解】 「とはいえ、現状こうなっているよね」「こういう障害があるからこうしたいけどできないよね」という嘆きや本音を忌憚なく語る。原因究明部分はやらない。	グループシャッフル⇒ペア対話⇒グループ対話 キーワードやステートメントをホワイトボードにメモ⇒全体シェア (5分)	グループ
16:00	0:20	再度【目的・ビジョン】の確認 現状を踏まえたうえで、それでもこの学校で達成したい、子どもの姿 (卒業時) とは？	ペア対話⇒グループ対話⇒キーワード抽出⇒グループ全体シェア	グループ
16:20	0:20	【具体的な着手】 What/Action 上記の学年別目標を達成するために、具体的に教員である私、私たちの具体行動、スタートすることは何か？ 学年別討議と全体シェア	(低中高学年別着席) ⇒ワークシートにケース別に記入 (授業、行事、生活指導、その他から、取り組みやすいものを選び記入) ⇒全体シェア (5分)	グループ
16:40	0:03	【チェックアウト】 ワークシートに、感想・気づきを各自記入 (各自)	個人がワークシートに記入	個人
16:43	0:02	【まとめ】 総括 (校長)	校長から総括と挨拶	全体
16:45	1:45			

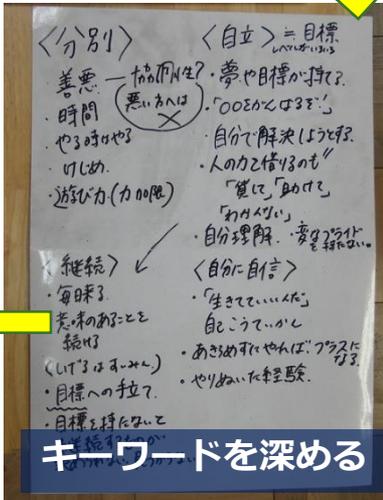


卒業時の姿を決める

具体的にどこで何を伸ばすか



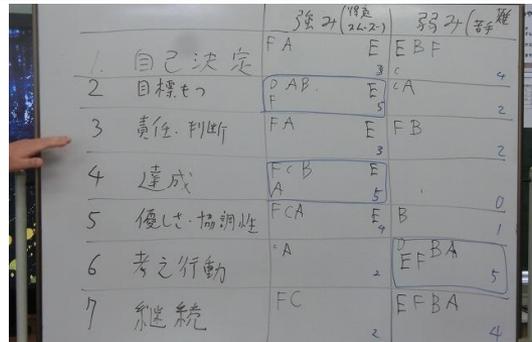
低中高で話し合い
アクションプランを決定



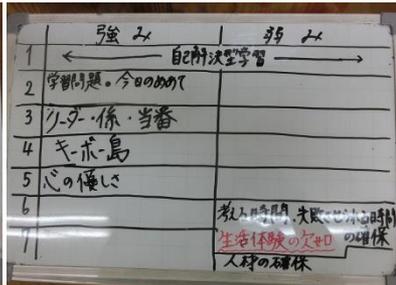
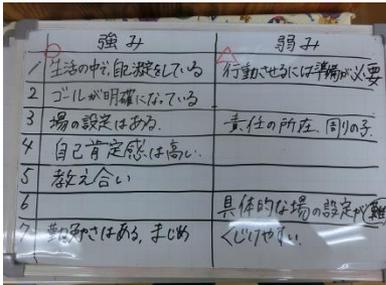
キーワードを深める

柏市立酒井根東小教育課程創造会議 3 7つの資質・能力を育成してきたか 1学期実践を振り返る

時刻 目安	正味	内容概略	行うこと (※は、ワーク設定の意味)	形式
9:00	0:20	オリエンテーション WSの目的説明 (校長) ファシリテーター紹介 (福島) チェックイン・ 「1学期あなた自身をほめてあげたいと思った瞬間」 対話のグラドルールの確認 「何が正しい、だれが正しいを決める場ではない」	WSの目的と終了後のありたい状態を説明 2人ペアでチェックイン (向かい側の人)	全体 ペア
9:20	0:40	【1学期の振り返りチェック】ワークシート1 7資質能力項目についてのチェック どの程度意識して教育活動を行ったかを振り返る 個人チェック (10分) ⇒ グループシェア (15分) ⇒ 全体シェア (順位づけ)	資質能力をいかに意識して伸ばせたかを1学期の学習活動を振り返ってみる 全体シェアでは、どの項目が取り組みやすく、どの項目が取り組みにくいかが明らかになってくる	個人 グループ 全体
10:00	0:10	休憩		
10:10	0:20	【7資質能力と教育課程5領域との関連その1】ワークシート2 7資質能力と教育課程5領域がどのように関連するかを、対話しつつ、マトリックスを完成させる	グループ⇒全体シェア マトリックスにすることで、資質能力と教育課程の領域との関連について俯瞰した立場から眺める	グループ
10:30	0:50	グループ変更 5つの教育領域班に分ける (途中シャッフルする。自分が提案できそうな2領域に所属する 25分×2回転のワールドカフェ) ・各テーブルで1人はテーブルホスト (自主的に) 【7資質能力と教育課程5領域との関連その2】 教育課程5領域のどこで行うかを具体的にステートメント化する	各グループが、領域ごとにまとめる⇒全体シェア 明日の個別具体的な年間計画に入る前に、どのような活動をいれることで育むことができるかの見通しをたてる	グループ
11:20	0:05	【まとめ】 総括 (校長)	校長から総括と挨拶	全体

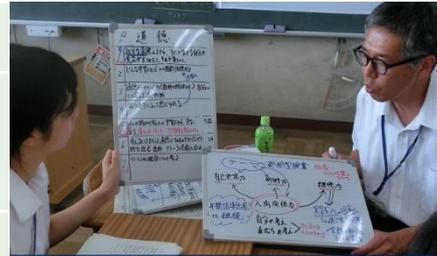


7つの資質・能力育成に向けた実践振り返り



柏市立酒井根東小教育課程創造会議 4 育成する7つの資質・能力を育む 教育活動領域を決める

時刻 目安	正味	内容概略	行うこと (※は、ワーク設 定の意味)	形式
14:00	0:05	オリエンテーション WSの目的説明 (校長)	WSの目的と終了後のありたい状態を説明	全体
14:05	1:30	【7つの資質能力と年間指導計画その1】 30分 ×3回転 (昨日参加しなかった3つの領域にコミットしてのワールドカフェ) ・テーブルホストは、研究主任 生徒指導主任 特活主任 外国語主任 道徳主任 昨日のワークシートを参考に、7つの資質能力を意識しつつ、5領域の年間指導計画に落とし込んでいく 計画表の中に、付箋で番号を入れ、その番号に対応した具体的・効果的な指導内容を模造紙 (またはホワイトボード) に書き込んでいく ※間に休憩を入れる	グループ 年間指導計画を眺めながら、昨日の検討も参考にしながら、具体的に計画のどの部分で重点的に取り扱うのか、どういったアプローチをするのかを話し合う	個人 グループ 全体
15:35	0:10	休憩 発表準備		
15:45	0:30	グループ別発表 研究主任が発表	各領域班5分×5グループ	グループ
16:15	0:05	【まとめ】 総括 (校長)	校長から総括と挨拶	全体



道徳
自己決定力・継続力 大人になる力



教科
自己肯定感・考える力・大人になる力



総合
自己決定力・人間関係力



特別活動
自己肯定感・人間関係力・継続力



外国語
自己肯定感・人間関係力・継続力

プロジェクトリーダーの元に
全職員が代わる代わる訪れてプレストし、
最終決定はプロジェクトリーダーが行い
指導計画上の重点事項を指定していく。

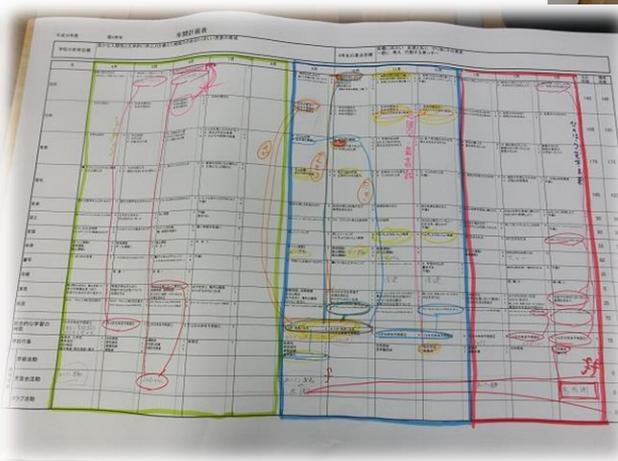
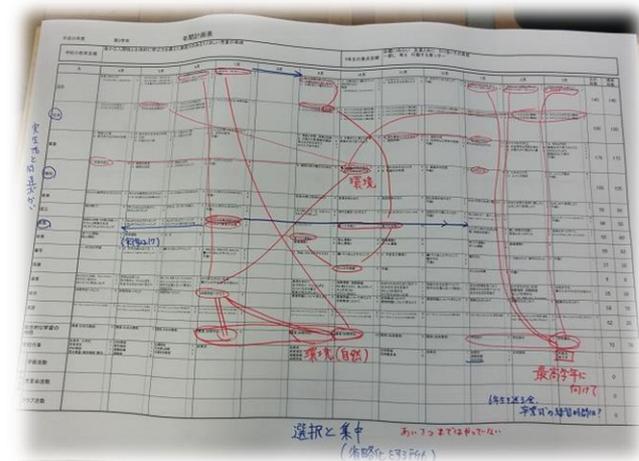
柏市立酒井根東小教育課程創造会議 5 めざす児童像& 7つの資質・能力を育む 教科横断教育課程づくり



各学年ごとに分かれ
全教科年間計画を拡大したものを元に



発表して共有化
学年間のつながりを視野に

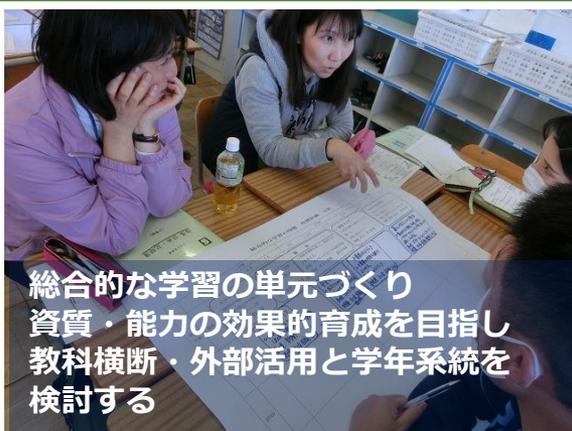


各教科で培う資質・能力と
求められる学習活動をつなぐ
すると・・・
教科間を関連させたり
外部人材を取り入れたり
することの方が効果的である。
2学期から一部修正して実施

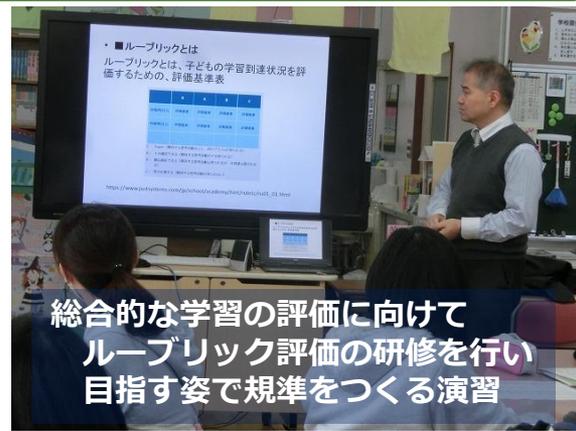
柏市立酒井根東小教育課程創造会議 5・6・7 めざす姿, 7つの資質・能力を育むH31教育課程づくり



今年度を振り返り
プラスとマイナスを出し合い
プロジェクト実践を総括する



総合的な学習の単元づくり
資質・能力の効果的育成を目指し
教科横断・外部活用と学年系統を
検討する



総合的な学習の評価に向けて
ルーブリック評価の研修を行い
目指す姿で規準をつくる演習



各プロジェクトの取組状況を
発表して共有する



総合的な学習の単元の完成

新学習指導要領実施に向け
教育課程創造のサイクルはできた

評価に向けて, 子供の学びを
どのように見取り
どう指導改善につなげていくか
そのマネジメントが次の課題



高学年の外国語カリキュラム

授業 35 時間 + モジュール 30 時間 + 交流会等 5 時間

学習内容のうち繰り返しが必要なもの
書くこと フレーズを覚えること →モジュール

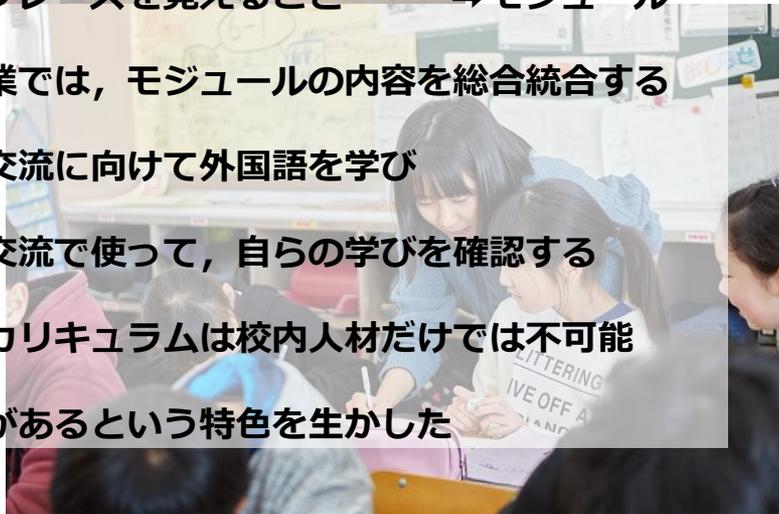
1 時間の授業では、モジュールの内容を総合統合する

留学生との交流に向けて外国語を学び

留学生との交流で使って、自らの学びを確認する

このようなカリキュラムは校内人材だけでは不可能

学区に大学があるという特色を生かした



5年生の国際交流会。めあては「英語を使ってたくさん話す」です。5年生の外国語の授業では、1学期から英語を使ってのコミュニケーションに力を入れてきました。



今回の活動は、グループごとに6名のALTの先生にご挨拶。そして英語を使っての自由な質問タイムです。授業で学習した「What ~ do you like ~?」を使って質問しているグループが多く見られました。学んだことを実践できる貴重な時間になりましたね。実際に自分の口で話すことでより定着していきます。



英語で何と言うかわからない言葉があったら、、、
不安に思っている子どもたちに東小のALTシリーシャ先生からアドバイスです。「How do you say ~ in English ?」わからない言葉を日本語のまま入れて伝えると英語でどのようにいうの